

ねばり強い熱意をもって

チッソ旭肥料株式会社

常務取締役 吉田俊郎



明けましておめでとうございます。読者の皆様方におかれましては、本年が幸多い年でありますよう心からお祈り申し上げます。

昨年をふり返ってみますと、社会面では痛ましい事件、特に低年齢者を狙った惨事が目立ちました。政治、経済面では、行政改革、財政改革への挑戦が現実のしがらみの中で悪戦苦闘している状況下で金融業界の経営破綻が続出し、景気の低迷に拍車をかけると共に、国民に不信を抱かせるなど、明るさの少ない年でした。

本年は、将来に向けての道が見える世相が形成され、明るい年になってほしいと思っています。

さて、農業をとりまく環境についてみますと、2、3年来の安定した収穫等より米の在庫過多となり、減反問題が大きな課題となりました。

本年は、3年前に施行された新食糧法の運用について国民的コンセンサスが求められる年となるでしょう。

また、本年は約35年続いた農業基本法が、見直される運びとなっています。我が国の農業、農家にとりまして将来を見定めることができる指針が示されることを期待したいと思います。

直面する日本農業の課題は、前述の減反問題、海外農産物との競合問題、環境問題等々山積して

おります。

当社におきましては、こうした課題の解消に少しでもお役に立つべく機能製品の開発を進めてきました。「LPコート®」、「ロング®」、「CDU®」、「燐硝安加理®」、「あさひポラス®」、「与作®」、「グリーンパイル®」などの製品であります。

当社としましては、さらに製品の改善を進めると共に、用途開発、使用開発等ソフト面の充実に努めたいと考えております。

情勢の変化と共に、今後、農業、農家のニーズは、多様化し、私達への要請も多岐にわたることになるでしょう。資材の開発、普及につぎまして、広巾い視野より、ねばり強い熱意をもって取り組む所存であります。

「農業と科学」は来年には発刊30周年を迎えることとなりますが、皆様方とのコミュニケーション、皆様方の情報ソースとして、いささかなりともお役に立つべく、更に誌面の充実を図りたいと思っております。

本年も、本誌をご愛読いただきますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

本号の内容

§	ねばり強い熱意をもって	1
	チッソ旭肥料株式会社 常務取締役 吉田俊郎	
§	十和田のんにく	2
	十和田市農協 農業技術センター 所長 斗澤 彰	
§	生命にとって塩とは何か	7
	—生物と塩との関係史—12 京都大学名誉教授 近畿大学農学部教授 高橋 英一	